

日高地区 新規就農者紹介



兵庫県出身の佑季さんと、愛知県出身の美奈子さんご夫妻は、結婚されてから、約15年間大阪で暮らしていましたが、都市の便利さを享受する一方で、日々の喧騒や人の多さに少しずつ疲れを感じようになっていました。そんな折、佑季さんの北海道への転勤が決まり、二人は新しい土地での暮らしをスタートさせました。

【製菓会社の営業職を退職し、農業の道へ】

北海道に転居後、美奈子さんはデイワークで農業に触れる機会があり、実際に体験してみると作物を育てることの面白さに惹かれていきました。以前から将来的には二人で何かを始めたいという思いがあり、「農業」という選択肢にたどり着きました。そして、就農に向けて移住先を検討する中で、スーパーをはじめ生活環境が整っていること、都市部ほどの喧騒もないこと、そして馬が大好きであったことから、馬産地として知られる新ひだか町に強く惹かれました。この町なら、生活の不便さを感じることなく、心地よく暮らせると感じ、就農することを決意しました。

2025年7月取材

鈴木 佑季 さん、美奈子 さん

(新ひだか町)

就農年:2024年4月

経営形態:施設園芸(ビニールハウス6棟)

作付品目:ミニトマト(作付面積:20a 生産量:14t)

カボチャ(作付面積:30a 今年度から栽培)

【新規就農研修を開始】

新ひだか町では2回の農業体験実習を行い、いずれも良い印象を受けました。その経験が後押しとなり、面接を経て農業研修に参加。農業現場に身を置くことで、二人とも将来像を具体的に描くことができました。

【1年目の農家研修】

先進農家のもとで、ミニトマトの基礎的な栽培技術や営農全般について学び、農業の楽しさを実感しました。

【2年目のハウス団地研修】

静内ハウス団地(実践研修農場)では、自分たちで実際にミニトマトの栽培を行う、より実践的な研修を積みました。また、単なる技術の習得だけにはとどまらず、自ら積極的に地域との関わり合いを持つことで、周囲の人々と支え合える信頼関係を築くことができました。

【活用した補助事業】

- ・（北海道）地域づくり総合交付金
- ・（新ひだか町）花卉野菜生産体制強化対策事業
- ・（国）新規就農者育成総合対策のうち、経営発展支援事業

ビニールハウスの整備は北海道及び新ひだか町の補助事業を活用。国の経営発展支援事業にてトラクター・管理機・草刈り機・防除機などを導入しました。



事業を活用して導入した農作業機械

6棟のビニールハウス

【ミニトマト栽培のスケジュール】



栽培における工夫としては、葉から直接肥料を吸収させる葉面散布を取り入れています。この方法は手間がかかるものの、目に見えて効果が現れる点が大きな利点で、大きく美味しいミニトマトを育てることができます。



収穫間近のミニトマト

収穫したミニトマトは、時期にもよりますが、道内向けから、関東・中部・関西地方へも流通しています。繁忙期には、臨時で3～4名のパートスタッフを雇用し、全員で協力しながら毎日収穫作業に取り組んでいます。

【お休みの過ごし方】

当初は夫婦二人だけで作業ができると考えていましたが、実際には想像以上に忙しく、休みがほとんど取れませんでした。そのため、閑散期の11月から翌年3月中旬までの間で、実家に帰省したり、遊びに出かけています。

【人とのつながりが支える日々】

地域の人々とのつながりは非常に深く、「なんでも頼っていい」と言ってもらい、道具類も大小問わず快く貸してくれるほか、作業を請け負ってくれることもあります。堆肥は近隣の馬牧場から、米ぬかやもみ殻は米農家からいただき、大きな支えとなっています。農業は人とのつながりがあってこそ、継続できるものです。

【今後の展望】

農業の事業拡大については現時点では考えておらず、夫婦で無理なく続けられる規模での農業経営を大切にしたいと考えています。一方で、動物が大好きで、農業の延長としてペットフードの製造・販売等も模索中です。

【農家になりたい方々に伝えたいこと】

地域農業は、互いに支え合うことで成り立っています。周囲とのつながりを持ちながら営むことが基本であり、関係を断ち切った農業は、現実的にも難しく、お勧めできません。もし、人との関わりを避けたいのであれば、農村よりも都市部での生活の方が合っているかもしれません。

また、農業を続けていく上で大切なことは「学び続ける姿勢」です。現地に足を運んで直接見聞きすることはもちろん、YouTubeなどを活用して情報を得るなど、積極的に学ぶ姿勢が求められます。変化の多い農業の世界では、常に新しい知識や技術を取り入れる柔軟さが重要です。